

# 第69回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日時：令和3年6月19日(土) 10:25～11:40

口演発表 (一般口演発表) 10:30～11:25

表彰式 11:30～11:40

Zoomミーティングによるオンライン開催

連絡先：福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

## 奥羽大学歯学会

# 第69回奥羽大学歯学会プログラム

10:25 開会の辞

大野 敬 会長

## 一口演発表(一般口演発表 5演題)一

10:30~11:00

座長 廣瀬 公治

1. 比較Pan-genome解析から考察する口腔*Veillonella*全菌種の糖代謝能

○眞島いづみ、清浦有祐

(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

研修コード1104 関連項目 (1) 0306 (2) 0901

2. 窒素含有ビスフォスフォネートによる非古典的インフラマソーム活性化とIL-1 $\alpha$ 放出増加

○玉井利代子、清浦有祐

(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1199

3. 3Dスキャンした歯牙彫刻模型の評価

○齋藤龍一<sup>1</sup>、大木達也<sup>1</sup>、石田喜紀<sup>1</sup>、宇佐美晶信<sup>2</sup>、岡田英俊<sup>1</sup>

(奥羽大・歯・生体材料<sup>1</sup>、奥羽大・歯・生体構造<sup>2</sup>)

研修コード1001 関連項目 (1) 0113 (2) 1101

11:05~11:25

座長 川合 宏仁

4. 当科を受診した過去10年間の悪性腫瘍の臨床統計学的検討

○高良宗斉<sup>1</sup>、小嶋忠之<sup>1</sup>、山崎北斗<sup>1,2</sup>、高橋文太郎<sup>1</sup>、西 祐也<sup>1,2</sup>、

神林直大<sup>1,2</sup>、川嶋雅之<sup>1</sup>、臼田真浩<sup>1</sup>、御代田駿<sup>1</sup>、川原一郎<sup>1</sup>、

倉賀野徹<sup>2</sup>、宇根岡大典<sup>2</sup>、金 秀樹<sup>1</sup>、高田 訓<sup>1</sup>、大野 敬<sup>1</sup>

(奥羽大・歯・口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>2</sup>)

研修コード0502 関連項目 (1) 0104 (2) 0202

5. ラクトフェリンはTLR3活性化による抗ウイルス作用を亢進する

○小林美智代<sup>1</sup>、前田豊信<sup>2</sup>、遊佐淳子<sup>3</sup>、伊東博司<sup>3</sup>、加藤靖正<sup>2</sup>、廣瀬公治<sup>1</sup>

(奥羽大・歯・口腔衛生<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>2</sup>、

奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>3</sup>)

研修コード0306 関連項目 (1) 1103 (2) 1104

11:25 閉会の辞

清浦有祐 副会長

11:30 表彰式

## 口 演 発 表 抄 録 ( 一 般 口 演 発 表 )

10 : 30 ~ 10 : 40

### 1. 比較Pan-genome解析から考察する口腔*Veillonella*全菌種の糖代謝能

○眞島いづみ、清浦有祐  
(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

*Veillonella* 属細菌は偏性嫌気性グラム陰性球菌で、ヒト口腔における優勢常在細菌であるが、その病原性や生理学的機能はほとんど明らかになっていない。

本研究では、口腔 *Veillonella* 全菌種を対象とした比較 Pan-genome 解析により、KEGG データベースに基づいたその細菌学的機能のプロファイリングを行った。

本発表では、その中でも本属細菌にとって新規的知見となる糖代謝能の発見に関して報告する。

研修コード1104 関連項目 (1) 0306 (2) 0901

10 : 40 ~ 10 : 50

### 2. 窒素含有ビスフォスフォネートによる非古典的インフラマソーム活性化と IL-1 $\alpha$ 放出増加

○玉井利代子、清浦有祐  
(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

インフラマソームは、IL-1 $\beta$  の放出を伴った細胞死 (ピロトーシス) において重要なタンパク複合体である。カスパーゼ1依存ピロトーシスは古典的、カスパーゼ11 (ヒトではカスパーゼ4) によるピロトーシスは非古典的である。窒素含有ビスフォスフォネートであるアレンドロネート (ALN) による前処理は、マウスマクロファージ様細胞のカスパーゼ11発現を増強し、リポドA誘導 IL-1 $\alpha$  放出を増加した。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1199

10 : 50 ~ 11 : 00

### 3. 3Dスキャンした歯牙彫刻模型の評価

○齋藤龍一<sup>1</sup>、大木達也<sup>1</sup>、石田喜紀<sup>1</sup>、宇佐美晶信<sup>2</sup>、岡田英俊<sup>1</sup>  
(奥羽大・歯・生体材料<sup>1</sup>、奥羽大・歯・生体構造<sup>2</sup>)

模型実習の採点は評価者の主観により根拠が不明瞭になりやすい。そこで本研究は解剖学実習で学生が提出した歯牙彫刻模型を使用して、採点根拠の明示化を試みた。試料に対して3Dスキャナを用いてCADデータ化をおこない、データ上で計測点をプロットして隅角徴と弯曲徴を計測した。従来の実習における評価法と比較をおこなった結果、採点結果の一部に差異が生じており、客観的評価をおこなうためには複数の要素が必要であると示唆された。

研修コード1001 関連項目 (1) 0113 (2) 1101

11:05 ~ 11:15

#### 4. 当科を受診した過去10年間の悪性腫瘍の臨床統計学的検討

○高良宗齊<sup>1</sup>、小嶋忠之<sup>1</sup>、山崎北斗<sup>1,2</sup>、高橋文太郎<sup>1</sup>、西 祐也<sup>1,2</sup>、  
神林直大<sup>1,2</sup>、川嶋雅之<sup>1</sup>、白田真浩<sup>1</sup>、御代田駿<sup>1</sup>、川原一郎<sup>1</sup>、  
倉賀野徹<sup>2</sup>、宇根岡大典<sup>2</sup>、金 秀樹<sup>1</sup>、高田 訓<sup>1</sup>、大野 敬<sup>1</sup>  
(奥羽大・歯・口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>2</sup>)

本邦において頭頸部がんの罹患率および死亡率は年々増加傾向にあり、口腔・咽頭がんも1985年から2015年までの30年間で約3.5倍にも増加している。従来、口腔がんは60歳以降の男性に多いとされていたが、近年では若年層や、女性における発症例の増加が認められる。

今回、我々は奥羽大学歯学部附属病院口腔外科において、過去10年間に受診した悪性腫瘍の症例について臨床統計学的検討を施行したので報告する。

研修コード0502 関連項目 (1) 0104 (2) 0202

11:15 ~ 11:25

#### 5. ラクトフェリンはTLR3活性化による抗ウイルス作用を亢進する

○小林美智代<sup>1</sup>、前田豊信<sup>2</sup>、遊佐淳子<sup>3</sup>、伊東博司<sup>3</sup>、加藤靖正<sup>2</sup>、廣瀬公治<sup>1</sup>  
(奥羽大・歯・口腔衛生<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>2</sup>、  
奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>3</sup>)

ラクトフェリン (LF) は唾液などに含まれる抗菌ペプチドであり、微生物の感染を抑制することが報告されている。本研究では、LFの抗ウイルス作用を検討した。その結果、LFはTLR3が活性化された細胞に対しインターフェロン、および抗ウイルスタンパク産生を亢進させた。TLR3は宿主のウイルス認識機構の一つである。さらに、LFはSARS-CoV2疑似ウイルスの感染を抑制した。本研究費用の一部は、令和2年度学長裁量経費教育研究プロジェクト経費(学裁費2)を用いている。

研修コード0306 関連項目 (1) 1103 (2) 1104

第70回奥羽大学歯学会予定  
日時：令和3年11月13日(土)

---

—歯学会学会委員—

福井和徳(成長発育歯)\*、金 秀樹(口腔外科)\*、宇佐美晶信(生体構造)\*、  
山崎信也(口腔外科)、島村和宏(成長発育歯)、菊井徹哉(歯科保存)、  
車田文雄(口腔衛生)、前田豊信(口腔機能分子)、古山 昭(口腔機能分子)、  
大橋明石(口腔衛生)、御代田駿(口腔外科)、千葉駿一郎(歯科保存)

\*学会理事

---